

# エディトリアル

日光市民病院 管理者 杉田義博

今回の特集は「地域における多様な支援事例 超高齢社会を迎えて」とした。日本が世界に先駆けて超高齢社会を迎え、私たちが働く地域、特にへき地は過疎化とともに超高齢化、少子化が進んでいる。今特集では各地で起こっている医療・介護の現場が直面する問題を例示するとともに、より望ましい問題解決を導くための理論と制度を理解することを目的とした。

総論は日本総合研究所創発戦略センターシニアスペシャリストの沢村香苗先生に身寄りのない高齢者の問題について幅広く解説していただいた。誰もが身寄りのない高齢者になり得るわけで、決して他人事ではない。参考文献として沢村先生が手掛けられた多くの調査が紹介してある。ぜひ目を通すことをお勧めする。

次いでプライマリ・ケア医でもある京都大学の西岡大輔先生にプライマリ・ケアと公衆衛生から見た高齢者問題を、歴史的な観点と生活習慣病モデルから社会環境モデルへ、SDH(Social Determinants of Health)の視点を持つ必要性、社会的処方の問題点まで、専門職自らが価値観を変えていく必要性について論じていただいた。

医療と介護の領域において高齢者を含むさまざまな問題に取り組むとき、多くの場合そのフロントランナーとなるのは社会福祉士である。社会福祉士の歴史的経緯と業務を行う際のフレームワーク、そして今後期待される役割を台東区立台東病院の原健治MSWにまとめていただいた。

後半はJADECOMの施設において経験したさまざまな支援事例を取り上げた。最初は急性期病院として多くの救急患者を受け入れる横須賀市立総合医療センター(旧横須賀市立うわまち病院)の福田朋子MSWに急性期病院で遭遇しやすい身寄りのない高齢者に対処した事例を、次いで地域の病院である公立黒川病院の赤間弘治MSWにアルコール依存症とヤングケアラーという、最近クローズアップされることの多い事例を紹介していただいた。最後に同じく公立黒川病院で在宅医療に携わっていた上原周悟先生に、在宅医療の場で高齢者に向き合う中で多くの専門家が連携した事例を通して、地域でセーフティネットを構築する必要性についても解説していただいた。

都市部であっても地域・へき地であっても超高齢社会の問題点から逃れることはできない。本特集が読者の臨床、また地域を取り巻く問題の理解につながれば幸いである。

●編集委員の杉田義博先生からのメッセージ

<https://www.youtube.com/watch?v=7VttioOqVOg>

